

stage



賢治の八戸での足跡を辿る
吉田文憲さん(左)と筆者



8月3・4日に開かれる
「八戸芸術大学」
第3回講師の中島夏さん

虚を突かれた。

「よだかは、実にみにくい鳥です。」という『よだかの星』の書き出し。どうして賢治は、醜いではなく「みにくい」と表記したのだろうか。第二回八戸芸術大学(6月22日・天聖寺ホール・主催イカノフ)の講師吉田文憲氏(詩人・早大教授)はこのように切り出した。読み進めればそれが美醜の醜であるのは誰の目にも明らかであり、醜ゆえにこそ満天の星となつて今も私達を照射し続ける、誰もがそつう物語を疑わない。私も、それで読んだ気になつてきた。

暗黙のうちに平仮名表記を、こどもにも分かる童話という枠に乗せられて読みとばしていたのだ。文憲氏の指摘はこうだ。「みにくい」とは元々「見えにくい」という意味であつて、そこにこそ賢治の含意を読みとるべきではないのか。一同唝然として次の瞬間、一斉に身を乗り出す気配が走つた。そうなのだ。見えていても見出したことにはならない、内容が分かつたとしても読んだことにはならない、そつうということがままあるのだ。

「やまなし」を初めて読んだ時のこと。なぜか怖くて最後まで読み通せなかったのを覚えている。その恐怖感「やまなし」という平仮名表記に起因する気がした。やまなしとは何者なのか。山を無しにしてしまふような、世界を一呑みする妖怪なのか。山を成して迫ってくる大津波か黒死病のような凶兆なのか。のちにそれが山梨の実だと分かつて、表立った恐怖感が一掃されたあとも、名状しがたい小骨が体感として付いてまわつた。

文憲氏の指摘が曇りこまれる。「どんぐりと山猫」に数箇所出てくる「りす」を、賢治は一箇所だけ「栗鼠」と漢字表記している。なぜ、どんぐりと山猫なのかという謎は、りすではサツパリ要領を得ないが栗・鼠と書かれたなら、誰もがそこに食物連鎖的なトライアングルを、ひいては絶滅収容所的なコロナリズムさえ見出すに違いないと。

「おかしなはがきが、ある土曜日の夕がた、……」という書き出し。つい私は葉書の文面が異様だと思ひこんでしまうのだが、当時は土曜の郵便配達がなかったという史実を知らされてみれば、土曜に届いたこと自体がすでに「おかしな」事態だったのであり、翌朝めざめた一郎もまた、夢から醒めたのではなく夢へと醒めた「おかしな」事態の渦中にあるのは、ごく当然の成行なのだ。ワクワクす

る夢が「七生報国」の悪夢でもあったのだから。甲乙丙丁の丁。丙種合格すら望めず丁種不合格の葉書を配達されたであろう賢治ならではの、配達のない土曜の夜の身悶えこそが「おかしなはがき」の正体だと言え、言い過ぎだろうか。確かに、よだかは「見えにくく」、よだかをめぐる物語は賢治なしには見出されなかった。しかし本当に「見出し難い」のは、なぜ賢治はそうのように書いてしまつたのかという、その書かれたエクサリチュールにこめられた賢治の「殺意」なのではなかったか。

そこで「賢治殺人事件」。これが私達モレキュラーの演劇公演のタイトルである。御覧の通り「山本山」的な回文になつている。北斎殺人事件とかモーツァルト殺人事件とか言う時、その死の真相をめぐつて定説を覆すような推理や脱神話化が横行する。では、大森老女殺人事件ならどうか。誰もが大森に住む気の毒なお婆さんが被害者だと決めてかかるが、加害者の場合だつてこう表記するのは常だ。賢治殺人事件も同様で、賢治は実は加害者なのか被害者なのか、賢治の「殺意」は誰に、何に向けられていたのか、その謎に迫

8月のFriday Amusement Negative Shop

※全て午後7時30分～、料金500円
チケットはスペースベンにて販売

■8月2日(第443回)	安達良春プラスワンシアター
■8月9日(第444回)	未定
■8月16日(第445回)	未定
■8月23日(第446回)	未定

駐車場はございませんので、車のご来場はご遠慮下さい。
(近くに西町書店駐車場有り)

☒ スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎FAX 43-9876

※スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

FANSでは、脚本を広く募集しています。何か表現したくても踏み出せないあなた、一度「物語」を書いてみませんか? FANSでは、そんな方の思いを大切に舞台にのせてみたいと思っております。

8月4日「賢治殺人事件」にようこそ

演劇空間スペースベン

〈文/豊島重之(モレキュラー芸術監督)〉

賢治には「丁丁丁」と題された詩片がある。あの甲乙丙丁の丁、最低最悪の丁である。その一節「尊々殺々殺……ゲニイめたうたう本音を出した」。フラメンコのサパティアドとえんぶりのへんばいを同時に想起してみよう。ゲニイとはドウエнде、即ち、地霊のことだ。賢治の思考と身体に棲みつてきた「透明な幽霊の複合体」と言い換えてもよい。その地霊が今まさに賢治に辞令を突きつけている。尊とは生殺与奪の

公演は8月4日(日)、開場3時半・開演3時50分のワンステージのみ。会場はゆりの木通り・河原木内科むかいのダンスバレエリセ。出演は金沢理沙・山田孝太郎・大久保一恵ほか。前売千五百円・当日二千円。

予約は090-2998-0224
mailto:r667-dj.com
Fax 0178-45-9247(高沢)まで。